

今を未来に

緊急地震速報7時58分 その時保々小学校の子どもたちは・・・

昨日の朝、そろそろ子どもたちが学校に着くころのことでした。7時58分、職員室の職員の携帯が一齐になり、同時に校舎内にCTYから流れてくる緊急地震速報が鳴りました。「大きな地震がやってきます。

10、9、8・・・3、2、1」教頭先生がとっさに、身を守る行動をとるように指示し、その時職員室にいた職員は、池の横や運動場、廊下に出て、身を守る行動を指示しました。また、すでに教室にいた担任もいて、自分のクラスはもちろん、

隣の教室にいた子どもたちに「机の下にもぐる」という行動の指示も出していました。

放送がなりやんだ瞬間、校舎内はシーンとしていました。それだけ、子どもたちはとっさに避難行動がとれていたと判断しました。さらに、地震がおさまったかどうかを確認する時間をとり、雨が降っている中子どもたちを外に待機させ続けるより、校舎内の方が安全確認がしやすいと考え、教室に入るよう指示をしました。放送で校長より、大阪地方で震度6弱の地震があったこと、三重県北部は震度3であったこと（のちに四日市市の海岸付近の観測所で震度4が観測されていました）、ガラスにひびがはいったり、蛍光灯が落ちていたり、本棚が倒れている場合、近寄らずに担任の先生に伝えることも指示し、担任はすぐに教室へあがって子どもたちを落ち着かせること、担任が来ていなければ学年の専科の職員がそのバックアップに入ることを指示し、校舎内で危険なことが起こっていないことも迅速に確認をしました。

さらに、大阪北部の地震による被害状況（亡くなった方がその時点では3名、内1人は小学校のブロック塀が倒壊し圧死したこと、ライフラインに甚大な被害が出ていること、公共交通もストップしていることなど）から、以下のことを各担任から下校前に指導するように伝えました。

- ・下校中に余震があるかもしれない。その時は周りを見て、安全な所で避難行動をとる。
- ・登下校中に地震が起きた時は、春の親子下校の時に確認をしてもらった中間点を思い出し、学校が近いと思ったら学校へ戻ってくる、ここまで来たら家の方が近いと思えば家に帰ること。（朝はその逆）
- ・ブロック塀の横を通る子もいるので、ブロック塀から離れた所にしゃがむ。
- ・ブロック塀から離れることができない場合は、ダンゴ虫のポーズをとる。（ダンゴ虫のポーズをとれば、背中・頭はランドセルが守ってくれることにもなる。だからランドセルは6年間大切に使い続けて欲しいとも思っています。）
- ・今日の反省として、放送が入ったら、止まって聞くこと。

放課後、保護者の方から「学校から連絡がなかったので、子どもたちは無事なんだろうと思いましたが、心配していました。すぐメールがあれば。」というお話をいただきました。聞くところでは、ある市内の小学校で「すぐメールを出してほしい。」という要望があって、保護者向けにすぐメールを出したところ、その隣の小学校では「〇〇小学校はすぐメールを出しているのに、うちの学校は出さないのか？」という、連絡が入るということがあったそうです。ご心配をおかけしたことは申し訳ありませんでしたが、連絡をいただいた保護者の方が言われる通りで、「知らせがないのは、無事の知らせ」と、受け取っていただ



けますと、大変助かります。その分、子どもたちの安全確保に集中できるからです。

また、1年生の中には「廊下において、どうすればいいのかわからなかった。」と家に帰ってから話をしていた子がいることも教えていただきました。子どもたちに改めて昨日の地震速報があった時どのような行動がとれたか、また困ったことはなかったかを確認し、さらに安全な対応ができるように、指導、見直しをしていきたいと思ひます。

昨日は、四日市空襲の日でした。

昨日は、運動場のポールに半旗を揚げました。今から73年前の6月18日、四日市市に焼夷弾約3万個が落とされ、四日市市の中心街は焼け野原になったという日でした。本校では、時刻になりましたら職員室にいる職員が黙とうをし、子どもたちには戦争でたくさんの方が亡くなり、その亡くなられた方への哀悼の思いと、平和を願う気持ちを大切にしたいということ、のびゆく四日市に載っている「戦災にあつて」を資料にしながから、子どもたちの発達に応じた言葉で、担任から話をしました。

私は母方の祖父をシベリアの抑留で失っていますし、祖母は戦争の貧困の中病気で亡くなり、母は伊賀上野の親戚をたよって疎開をしていたので助かったこと、四日市空襲の後母は親戚の人に連れられて、四日市に残っていた親戚の無事を確認しに来たこと、納屋にあった母の家は空襲で燃えてしまったこと、その周りにはたくさんの真っ黒になったご遺体そのままにされていたことを、私が教員になった時に、「子どもたちに戦争のことを伝えたいから。」と戦争の事は絶対に話してくれなかった母から、聴き取ったことを覚えています。73年たった今でも、私の母は戦争のことを自分から話すことはありません。戦場が出てくるような映画がテレビで放送されていると、そつとその場からいなくなります。それほど幼かった母（終戦の時は9歳でした）にとっては、辛い思い出になっているのだと思つて、いつも半旗を見あげています。

夏のプール開放 監視員救命救急法講習会開催

昨日は、夏のプール開放のための監視員の方の救命救急法講習会が開催されました。会場準備や受付などをベルマーク部の方にお世話になりました。ありがとうございました。

実は、この講習会に、早朝の地震が影響し、四日市北消防署北部分署の方や保々分署の方が、講師として来ていただくことができなくなりました。急遽、教頭が講習会で必要な機材などを北部分署へ取りに行き、養護教諭の木津（救急救命法普及員）が中心になって、心肺蘇生法とAEDの取扱いの訓練を実施することになりました。そのため、昨日講習を受けていただいた方には講習の修了証明書を発行することができませんでした。もちろん、監視員としての技能を習得いただきましたので、昨日の講習会は有効であることは、教育委員会にも確認をしてありますので、ご安心ください。



なお、昨日の講習会には前PTA会長の赤星様が、万が一監視員の方の都合が悪くなった時には、ピンチヒッターで入りますということで講習会を受けていただきましたこと、会員の皆様にもお伝えします。また、最終日7月31日の午後のプール開放の運営アシスタントが現在6名となっています。最終日は片づけもありますので、ボランティアの方を募集したいと考えています。お手伝いいただける方は、お子様の連絡帳にその旨お知らせください。多ければ多いほど、この日は助かります。